

西播の蝶分布資料 (7)

山崎町の蝶類

岩 村 巖

Some note on the Butterfly Fauna of South west Hyōgo-pref (7)

by Iwao Iwamura

(The Butterfly Fauna of Yamasaki-cyō)

I). はじめに

昭和37年以来約18年間にわたって、勤務の合間をみながら主として兵庫県西部の蝶相の解明に取り組んで来たが、これまでに判明した事柄については、その都度兵庫生物（兵庫県生物学会機関誌）等の紙面をかりて報告しておいたとおりである。

- 1). 西播の蝶分布資料(1): 兵庫生物、Vol.(4)No. 2
- 2). 西播の蝶分布資料(2): 兵庫生物、Vol.(4)No. 3~4
- 3). 西播の蝶分布資料(3): 兵庫生物、Vol.(4)No. 5
- 4). 西播の蝶分布資料(4): 自刊 (1965. 11. 5)
- 5). 西播の蝶分布資料(5): 赤穂高等学校研究紀要
- 6). 西播の蝶分布資料(6): ひろおびNo. 4

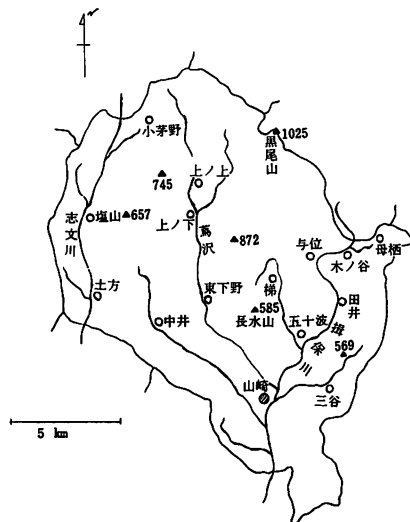
近年、当西播地方にもいくつかの同好会が発足し、会員間の情報の交換の機会も次第に増加するにつれて、北部の宍粟郡、佐用郡等における採集調査等によるデータも少しずつそろって来たのを機会に、現在までに集約されている記録を中心にして、宍粟郡山崎町の蝶相についてまとめてみたいと思う。

山崎町は宍粟郡の最南端に位置し、北部は同郡の一宮町、波賀町の2つの町と境を接している山間の町である。総面積177.79km²、人口25,961人、世帯数6,507戸のこの一地方都市は、花木の町としても有名で、毎年5月にはサツキ祭が開かれている。

町の東方には揖保川の本流が流れ、支流の薦沢等の河川の分岐点近くに町の中心街が発達している。交通は主としてバス輸送にたよっており、西隣の南光町、南の三日月町、新宮町、東の安富町等とはこの中心街より網目状にのびるバスにより連絡されている。

北部の一宮町との境界上には黒尾山(1025m)を有し、同じ山塊には多数の標高800mを越える峰々が連なっている。一方、町の西部を流れる志文川は揖保川とは水系を異にする千種川水系に属する河川であり南光町を流れる千種川本流と下流で合流する。各河川の流域には古くから水田が開かれており、水の便の悪い所は畑地となっている。人家は各河川の流域にそって点在しているが中には小茅野のように標高600mもの高所に存在する集落もある。町の大部分は標高200~800mの山地帯であり、林業も盛んである。

Fig. I 山崎町概念図



II). 気候及び植生

当地方における気候は西播の海岸地域と同様にいわゆる瀬戸内海型の特性をそなえており、全般的には温暖で年間の降水量も比較的少ない。しかし、赤穂、高砂等の海岸地域の市町村と比較してみた場合には、内陸的な特徴もかなりはっきりと表われているのがわかる。過去15年間(1961~1975)の月平均気温は1月が2.8度、8月が26.8度あり、年平均にすれば14.2℃を示している。年間における平均気温の差は24.0℃とかなりの幅があり、家島(22.6℃)高砂(22.9℃)等と比較してみてもやや大きい。このような山間地としての特性は一日の最高最低気温の平均をみてもその傾向がみられ、夏期7月8月の最高気温の平均はいずれも30℃をこえていてかなり高い。これは南部の家島や高砂、姫路等と比較してみても大差ないか、場合によってはむしろ高いくらいである(7月の一日の最高気温の平均が山

崎、30.2℃、家島29.8℃)。一方、冬期の冷えこみはかなり厳しいものがあるようで、1月の月平均気温が2.8℃（高砂4.2℃、家島5.3℃）日最低気温の平均-2.1℃（高砂-0.5℃、家島1.0℃）とかなり低い。年間の降水量は全年で1500mm程度あり、特に6,7月と9月に多い。冬期の積雪は年平均10日を越えることはないようで、2月平均の最深積雪も10cm程度である。又冬期の降水量も、12月、1月、2月の3箇月を通してみても平均150mmと多くない。このように全般的にみれば、瀬戸内海性気候の山地型気候を示している当地方も、北部の小茅野等標高の高い所にある集落などにおいては当然より厳しい気象条件になると考えられるが、これらの地域の極地的な気候については今の所くわしいデータがない。

Table. I 山崎町の気温 (1961~1975)

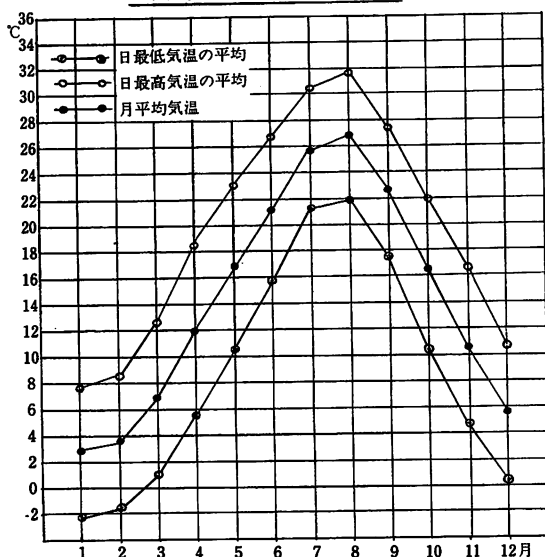
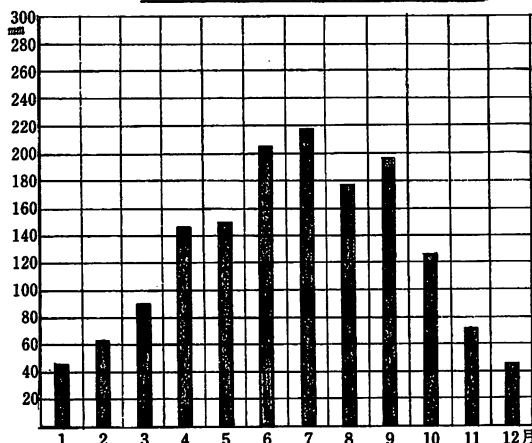


Table. II 山崎町月別降水量 (1961~1975)



当地方の地質は揖保川流域の沖積層をはぶけばその大部分が生野、有馬層群に属する流紋岩地帯となっている。ただ山崎より北西に谷ぞいにのびている山崎断層を境にしてこれより南側には丹波層群に属する古生代層があり、北部の山塊の一部には六甲型の花崗岩の層もみられる。又表層土の発達も比較的よい所が多く、そこに生えている植物の種類も比較的多くのものが知られている。しかし、県内のどの地域でもそうであるように、山崎町においても神社仏閣等古くから信仰の対象となっていたような特定の地域をはぶいて、その原植生が残されている所はほとんどない。兵庫県瀬戸内側における原植生は特殊な所をはぶけば、標高500mぐらまでの比較的低い地域では照葉樹林が発達し、800m以上の高地帯にはブナ、ミズナラ等を優先種としたいわゆる冷温帯性の落葉広葉樹林となるはずであり、この中間帯にはモミやイヌブナを中心とした樹林が出来るはずであるが、このような典型的な植生の相観がみられる所は皆無に等しく、現存する植生はかなり人工的な要素の加わった2次林がその大部分をしめている。

揖保川本流及びその支流の各河川の流域に発達している沖積層の上には古くから水田が開かれており、やや水の便の悪い所は畑地になっている。しかし全体的にみればこれら沖積層は極めて少なく、流紋岩質よりなる標高800mまでの山地帯が当地方の中心になっている。当地方において森林のしめる割合は全面積の84%に達しておりその内の46%までがスギ・ヒノキ等の針葉樹を中心とした人工林で占められている。

Fig. II 山崎町の原植生

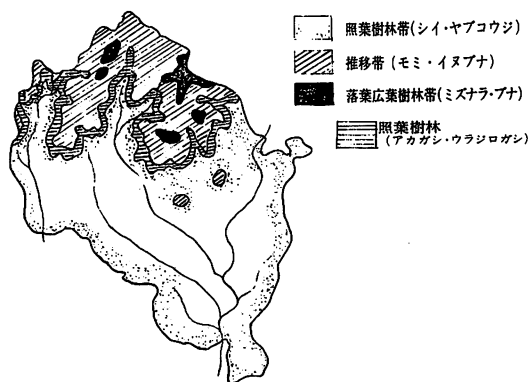


Fig. III 山崎町植生図

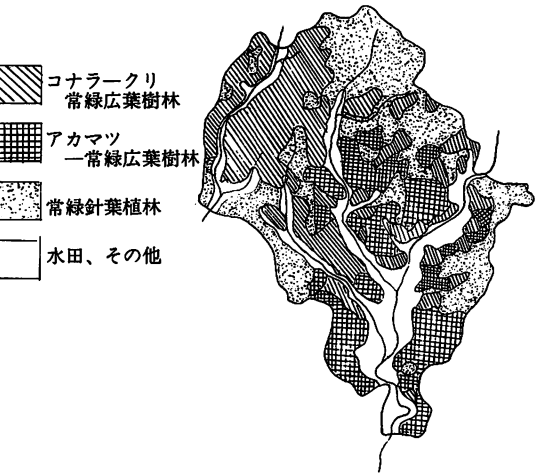


Table. III

山崎町の土地利用状況 (ha)									
農用地帯				山林原野				その他	
田	畑	樹園地	その他	人工林		天然林		その他	
				針葉樹	広葉樹	針葉樹	広葉樹		
1250	183	35	101	9647	215	859	3785		
1569				9862		4644		379	1331
				14879					
合計				17779					

やや標高の低い南部及び山麓を中心としてアカマツ林が発達しているがその面積はそれほど多くない。北部山地帯に入ればこのアカマツ林にかわってコナラ・クリ等を中心とした落葉広葉樹林となり、特にこの植生は西部の志文川流域でかなり顕著に残されている。しかしこれらはそのいずれもが伐採あとに出来た2次林である。町の北部一帯の黒尾山塊は最高峰の黒尾山(1025)mを中心として標高800mを越える無名峰がかなりあるが、その大部分が植林によって出来たスギ・ヒノキ等の人工林になっており、モミ・イヌブナ等の残されている所はもうないものと思われる。又、各河川流域の標高500mあたりまでの所に発達するはずの常緑の広葉樹林においても古くから何度となく伐採がくり返されて来たはずであり、特に最近木材の切り出しを目的として大規模な林道の建設が各河川の溪谷でおこなわれているため、これら溪谷の植生の破壊はすさまじいものがある。筏等の急峻な岩場にウラジロガシ等の疎林が少し残されている以外、潤葉樹林の残されている所は少なくなってしまった。

III). 主な種類に関して

1). *Parnassius glacialis* Butler (ウスバシロチョウ)

本種は県西北部一帯にかけてかなり広い分布域を持ち、現在までかなり広範囲におたつての採集報告例がある。揖保川水系では北部の引原川流域の音水、道谷、戸倉、日ノ原、赤西、原、水谷等で、又三方川流域の公文、横山、上岸田、倉床、小原、福知等六栗郡一宮町、波賀町を中心としてかなり産地も多い。一方西隣の千種川水系では北部の大畠、西河内、末包、日名倉山等で採集された報告例がある。このように表日本側の西部山地帯に広い分布域をもつ本種も、東部にいくにしたがつて急東に産地が少なくなり、夢前川流域の雪彦山、熊部、佐中、市川水系上流西岸の川上、上小田等でいくらか産地が知られている以外、より東の加古川流域には今の所発生地の報告がない。又、裏日本側の円山水系においては古くから上流の奥田路、神子畑等で発生していることが知られており、同じ水系の八木川、小佐川流域にも多産地がかなりある。城崎郡、美方郡下にもかなりの産地があると思われるが、今の所、十分な調査報告がない。

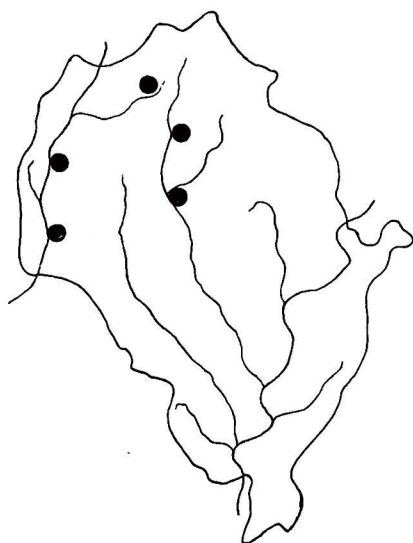
さて、山崎町における本種の分布であるが、西部の志文川流域(千種川水系に属する)の土方、塩山、段、大沢、上流の小茅野等で採集された記録があり、同地域には広く分布しているものと思われる。同じ流域の鷹巣(千種町)においても極めて多産するとの報告がある。一方町の東部を流れる揖保川の主流ぞいには今の所調査が十分におこなわれていない関係も手伝って、本種の発生は確認されていない。やや上流の東河内、(一宮町)には多産するからやがて発見される可能性はある。現在までのところ、この水系における確実な本種の産地は、北西部より本流へそぐ支流の葛沢の上流一帯である。筆者が1968年5月に上流の岩上神社付近で6♂を採集したことについてはすでに報告しておいたが(みのう、Vol.1.1968)その後も毎年発生を繰返しているらしく、1975年5月に同地を再びおとずれた時にもかなりの個体が発生していたし、同じ日より下流の上の下部の周辺にも本種が発生しているのを確認している。一方、志文川と葛沢の中間に位置する寺西、塩田、中井等の部落周辺や千種へぬける県道ぞいでは今の所採集されたという報告例を聞かない。谷一つ南の三日月町下萌原や相坂では最近発生が確認されているので、今後の調査に期待したい。

- 1968. 5. 31 6♂ 葛沢 (岩村)
- 1975. 5. 23 6♂2♀ 葛沢 (〃)

○1975.	5.	23	2♂4♀	上の下(岩村)
○1977.	5.	5	2♂	土万(尾崎)
○1977.	5.	5	5♂1♀	塩山(〃)
○1977.	5.	5	3♂	大沢(〃)
○1977.	5.	5	12♂1♀	段(〃)
○1977.	5.	5	17♂2♀	小茅野(〃)

当地方においては5月上旬より発生をはじめが、この時期には比較的個体数は少なく、10日頃より盛期に入り、下旬には個体数が少なくなるようである。

Fig. IV ウスバシロチョウ



2). *Chrysozephyrus smaragdinus* Bremer (メスアカミドリシジミ)

本県における本種の最初の確実な採集記録は飾磨郡夢前町雪彦山のモミジ谷において山本広一氏により採集されたのが最も古い記録のように思われる。その後採卵技術の発達等によって現在では県の北部西部を中心としてかなりの産地がみつまっている。日本海側では矢田川、岸田川、円山川等の河川の上流地域において、又瀬戸内側の千種川、揖保川、市川、加古川等の各河川の上流地域にかなりの産地が点在している。

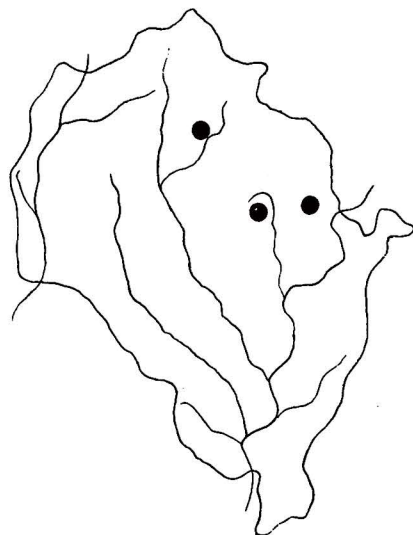
現在までに報告されている地域を総合的にながめた場合、本種の分布は上述の雪彦山を南限としておよそ標高400m～800mあたりの山地の溪谷ぞいに集中しているのがわかる。

山崎町における本種の最初の発見は同町筏の上流奥山国有林において筆者が4♂を採集したのがはじめて

あらうと思われるが、その時発生していたサクラの老木は林道の改修により今はもう切りたおされてその姿をみることが出来ない。現在ではこの沢をさらに上流までさか登らなければ本種の姿をみることができなくなってしまうが、枝谷等に入ればまだかなりの個体が生棲いているようで、1978年～1980年にかけてこころみた当地の採卵調査においては、かなりの数の卵がみつまっている。最近、この溪谷よりさらに一つ北にある与位の上流及び、東側の河原山国有林においても卵がみつまっているので、このあたりの黒尾山麓一帯の標高400m～600～あたりの溪谷には広く分布しているようである。いずれの産地にもサクラの大木がかなり残されているが、数種のサクラがまざっているようで、これらの種名や本種のサクラに対する自然状態での嗜好性の問題等については今の所まったく調査されていない。

現在までに山崎町において本種が確実に生棲していることが確認されているのは以上の3箇所であるが、西部の志文川流域の上流付近にもかなりいい広葉樹林が伐採されずに残されている所がかなりある。本年の1月に小茅野を中心としてかなりくわしく調査してみたが、本種の卵を発見することが出来なかった。今後さらに調べてみるつもりである。又、揖保川東岸の母栖、三谷の山塊も上流の東河内本谷や伊和において卵が発見されているので調査してみる必要のある所である。

Fig. V メスアカミドリシジミ



○1964.	6.	7	4 ♂	筏	(岩村)
○1978.	12.	6	32卵	"	(")
○1979.	11.	25	17卵	"	(")
○1979.	1.	14	8卵	与位	(")
○1980.	1.	7	21卵	河原山国有林	(")

3). *Favonius latifasciatus* Shirozu et Hayashi (ヒロオビドリシジミ)
Favonius sapphirinus Staudinger (ウラジロドリシジミ)

西播におけるこれら両種の分布については、昭和37年以來長年にわたってかなり力点を置いて取り組んで来たのであるが、1978年までの調査結果については本誌前号の紙面をかりて報告しておいた通りである。その際六栗郡下においては山崎町蟹ヶ沢、一宮町井ノ内での採集記録があることにふれておいたが(兵庫県産業調査報告I・高田・井手)、その後新しく山崎町青木で新産地がみつかったので報告しておく。

○1980. 1. 19 3卵(ヒロオビ) (岩村)

○1980. 1. 19 6卵(ウラジロ) (")

場所は県道山崎千種線にそった部落のすぐ裏手で、数年前に一度切られたナラガシワの小木がまばらにある林である。佐用郡の上月町や佐用町とちがい、山崎町内には発達したナラガシワ林が極めて少なく、(かつてはかなり広い範囲にわたって存在していたものと思われるが、植林の結果ほとんど残っていない)、今後あまり新産地のみつかる可能性はないものと思われる。今後みつかると思えば、高下・市場等の道路ぞいにわざわざ残されているナラガシワの疎林からであろう。

Fig. VI ウラジロドリシジミ

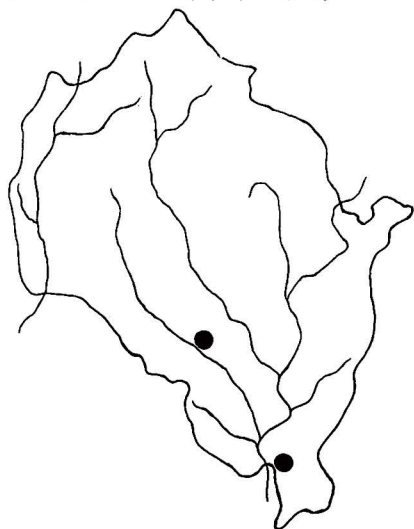
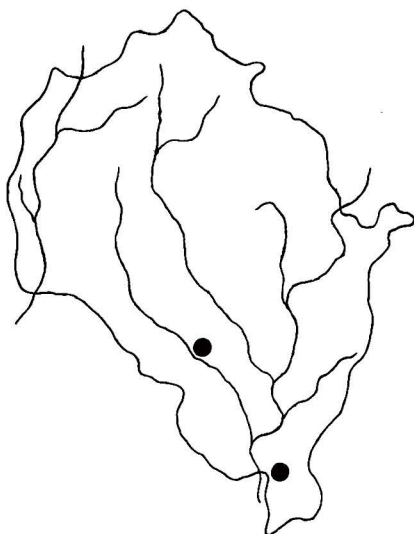


Fig. VII ヒロオビドリシジミ



4). *Dichorragia nesimachus* Boisduval (スミナガン)

食樹の関係で分布は偏在しており、個体数も多くない。現在までに筆者が確実に産地として確認しているのは葛沢上流と河原山林道ぞい及び筏の奥の3箇所であるが、この内葛沢では5月と8月に採集した記録が残っている。近年この葛沢の本流もかなり伐採が進められており、環境が一変しつつあるが、上流の岩上神社周辺だけはかなり自然の植生が保存されており、この神社周辺で毎年発生をくり返しているようである。発生期には必ず神社周辺の溪流で本種の姿を見ることが出来る。環境としては東側の河原山林道ぞいの溪谷の方がすぐれており、現在までの所1♂の採集記録しかないが、今後が期待できる場所のように思われる。一方志文川上流の小茅野付近にもかなりいい環境が残されている所があり、食樹もあるので、今後の調査でみつかる可能性が強い。

○1968.	5.	31	2 ♂	葛沢	(岩村)
○1977.	5.	21	1 ♂	河原山林道	(")
○1978.	6.	9	4 ♂	西五十波	(")
○1978.	8.	5	1 ♂ 1 ♀	葛沢	(")
○1979.	8.	16	1 ♂	筏	(")

5). *Neptis philyra* Menetries (ミスジチョウ)

山崎町筏で筆者が本種の分布を確認したのは1964年

でありかなり以前のことである。その後林道の拡張工事で同地の環境はかなり大きく変えられてしまったが、現在でも少ないながら発生しているようで、6月上旬に同地をおとずれると必らずその姿を見ることができる。さらにとなりの蔦沢でも1968年に1♂を採集しており、河原山林道でもその姿を目撃しているの、この山塊一帯には広く分布しているものと思われる。

ただ、県下の既産地である南光町、佐用町、上月町、関宮町、生野町、大河内町等のいずれもがそうであるように、当地方においてもその個体数は多い方ではない。西部の山地帯にも分布しているものと思われるが調査不十分のため確認されていない。今後の調査に期待したい。

- 1964. 6. 7 1♂ 筏 (岩村)
 ○1968. 5. 31 1♂ 蔦沢 (")
 ○1976. 6. 3 1ex目撃河原山林道(")

Fig. VIII



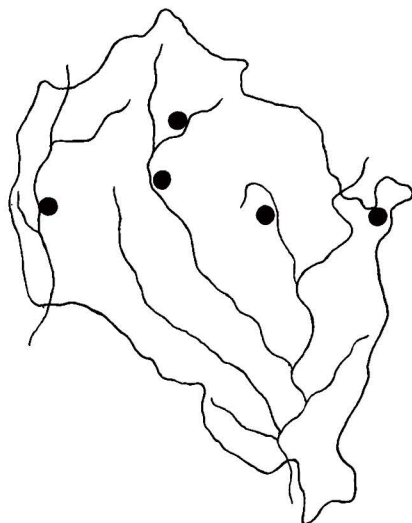
6). *Tongeia fischeri* Eversmann (クロツバメシジミ)

本種の山崎町における分布については比較的古くからの報告があり、1953年7月30日に松井俊公氏により2exの採集記録がある(山崎町市街地1ex、最上山1ex、すずむし4(4))。山本広一氏の私信によれば、山崎町内の採集地は市街地の民家の屋根に発生しているらしいとの事であり、食草も分布しているとの事である。

県下における本種の分布については、以前より赤穂、竜野等古い城下町の民家の屋根に生えているツメレン

ゲにおいて発生していることが確認されていたが、その後広畑政己氏の精力的な調査により、西播地域を中心にしてかなりの産地が点在していることが判明している。現在山崎町内では、梯、与位、木ノ谷等の揖保川本流ぞいの岩場において毎年発生をくり返しているようである。

Fig. IX ウラキンシジミ



IV) Check-list of Butterflies from Yamasaki-chyo Hesperiidae

- (1) *Erynnis montanus* Bremer ミヤマセセリ
 (2) *Daimio tethys* Menetries ダイミョウセセリ
 (3) *Choaspes benjaminii* Guerim アオバセセリ
 ※(4) *Areomachus inachus* Menetries ホシチャバネセセリ
 ※(5) *Thymelicus sylvaticus* Bremer ヘリグロチャバネセセリ
 (6) *Ochlodes ochracea* Bremer ヒメキマダラセセリ
 (7) *Thoressa varia* Murray コチャバネセセリ
 (8) *Isoteinon lamprospilus* C. et R. Felder ホソバセセリ
 (9) *Potanthus flavum* Murray キマダラセセリ
 (10) *Polytremis pellucida* Murray オオチャバネセセリ
 (11) *Pelopidas jansonis* Butler ミヤマチャバネセセリ
 (12) *Pelopidas mathias* Fabricius チャバネセセリ
 (13) *Parnara guttata* Bremer et Grey イチモンジセセリ

Papilionidae

- (1) *Parnassius glacialis* Butler ウスバシロチョウ
 (2) *Byasa alcinous* Klug ジャコウアゲハ
 (3) *Graphium sarpedon* Linnaeus アオスジアゲハ

- (4) *Papilio machaon* Linnaeus キアゲハ
 (5) *Papilio xuthus* Linnaeus アゲハ
 (6) *Papilio helenus* Linnaeus モンキアゲハ
 (7) *Papilio protenor* Cramer クロアゲハ
 (8) *Papilio macilentus* Janson オナガアゲハ
 (9) *Papilio bianor* Cramer カラスアゲハ
 (10) *Papilio maackii* Menetries ミヤマカラスアゲハ

Pieridae

- (1) *Eurema hecabe* Linnaeus キチョウ
 (2) *Eurema laeta* Boisduval ツマグロキチョウ
 ※(3) *Gonepteryx mahaguru* Gistel スジボソヤマキチョウ
 (4) *Colias erate* Esper モンキチョウ
 (5) *Anthocharis scolymus* Butler ツマキチョウ
 (6) *Pieris rapae* Linnaeus モンシロチョウ
 (7) *Pieris melete* Menetries スジグロシロチョウ

Lycaenidae

- (1) *Narathura japonica* Murray ムラサキシジミ
 (2) *Artapoetes pryri* Murray ウラゴマダラシジミ
 (3) *Ussuriana stygiana* Butler ウラキンシジミ
 (4) *Japonica lutea* Hewitson アカシジミ
 (5) *Japonica saephestriata* Hewitson ウラナミアカシジミ
 (6) *Araragi enthea* Janson オナガシジミ
 (7) *Antigius attilia* Bremer ミズイロオナガシジミ
 ※(8) *Antigius butleri* Fenton ウスイロオナガシジミ
 (9) *Neozephyrus taxila* Bremer ミドリシジミ
 (10) *Chrysozephyrus smaragdinus* Bremer メスアカミドリシジミ
 (11) *Favonius saphirinus* Staudinger ウラジロミドリシジミ
 (12) *Favonius orientalis* Murray オオミドリシジミ
 (13) *Favonius latifasciatus* Shirōzu et Hayashi ヒロオビミドリシジミ
 (14) *Rapala arata* Bremer トラフシジミ
 (15) *Ahlbergia ferrea* Butler コツバメ
 (16) *Lycaena phlaeas* Linnaeus ベニシジミ
 ※(17) *Spindasis takanonis* Matsimura キマダラリツバメ
 ※(18) *Nipanda fusca* Bremer クロシジミ
 (19) *Taraka hamada* Druce ゴイシジミ
 (20) *Lampides boeticus* Linnaeus ウラナミシジミ
 (21) *Zizeeria maha* Kollar ヤマトシジミ
 ※(22) *Zizina otis* Fabricius シルビアシジミ
 (23) *Celastrina argiolus* Linnaeus ルリシジミ
 (24) *Everes argiades* Pallas ツバメシジミ
 (25) *Tongeia fischeri* Eversmann クロツバメシジミ

Curetidae

- (1) *Curetis acuta* Moore ウラギンシジミ

Danaiidae

- (1) *Parantica sita* Kollar アサギマダラ

Libytheidae

- (1) *Libythea celtis* Fuessly テングチョウ

Nymphalidae

- (1) *Argyronome laodice* Pallas ウラギンズジヒョウモン
 ※(2) *Argyronome ruslana* Motschulsky オオウラギンズジヒョウモン
 (3) *Argynnis paphia* Linnaeus ミドリヒョウモン
 (4) *Argynnis anadyomene* C. et R. Felder クモガタヒョウモン
 (5) *Damora sagana* Doubleday メスグロヒョウモン
 (6) *Fabriciana adippe* Linnaeus ウラギンヒョウモン
 (7) *Ladoga camilla* Linnaeus イチモンジチョウ
 (8) *Ladoga glorifica* Fruhstorfer アサマイチモンジ
 (9) *Neptis sappho* Pallas コミスジ
 (10) *Neptis philyra* Menetries ミスジチョウ
 (11) *Araschnia burejana* Bremer サカハチチョウ
 (12) *Kaniska canace* Linnaeus ルリタテハ
 (13) *Polygonia c-aureum* Linnaeus キタテハ
 (14) *Nymphalis xanthomelas* Denis et Schiffermüller ヒオドリシチョウ
 (15) *Vanessa cardui* Linnaeus ヒメアカタテハ
 (16) *Vanessa indica* Herbst アカタテハ
 (17) *Dichorragia nesimachus* Boisduval スミナガシ
 (18) *Apatura ilia* Denis et Schiffermüller コムラサキ
 (19) *Hestina japonica* C. et R. Felder ゴマダラチョウ
 ※(20) *Sasakia charonda* Hewitson オオムラサキ

Satyridae

- (1) *Ypthima argus* Butler ヒメウラナミジャノメ
 (2) *Minois bryas* Scopoli ジャノメチョウ
 (3) *Lethe icelid* Hewitson ヒカゲチョウ
 (4) *Lethe diana* Butler クロヒカゲ
 (5) *Neope goschkevitchii* Menetries サトキマダラヒカゲ
 (6) *Mycalis gotama* Moore ヒメジャノメ
 (7) *Mycalis francisca* Cramer コジャノメ
 ※(8) *Coenonympha oedippus* Fabricius ヒメヒカゲ

Hesperiidae 13

Papilionidae 10

Pieridae 7

Lycaenidae 25

Curetidae 1

Danaidae 1

Lybytheidae 1

Nymphalidae 20

Satyridae 8

Total 86

(注)番号に※印を付したものは、文献等による報告にはあるがくわしい産地等の判明しないものを示している。

V) 結び

以上これまでに述べてきた事柄を要約すると、

1). 山崎町の蝶相について筆者がこれまでに知りえた範囲でまとめてみた結果、9科86種の分布が確認された。

2). 気候は温暖少雨の瀬戸内海型気候の特性を示しているが、海岸近くの市町村とくらべてみれば、夏期冬期の温度差や日最高最低気温差の幅が大きい等やや山地型の気候の特性もみられる。

3). 全体の84%が森林であるが、この内の約半分近い面積が植林によるスギ・ヒノキ等の人工林である。クヌギ・コナラ等の落葉性広葉樹林は西部の志文川流域ぞいにまだ比較に残っているが、北部・東部の山塊はその大部分が植林による2次林である。又、各河川の溪谷は現在木材の切り出しを目的とした林道の建設がすすめられており、植生の破壊が急テンポで進行しつつある。

4). 当地に棲息している86種のうちウスバシロチョウ・メスアカミドリシジミ・ヒロオビミドリシジミ・ウラジロミドリシジミ・スミナガシ・ミスジチョウ・クロツバメシジミの7種について、産地、発生状況等についてややくわしく記述してみた。又、上記7種及びウラキンシジミ・ミヤマチャバネセセリの9種については分布図を作成してみた。

5). 同じ宍粟郡の一宮町や波賀町にくらべて、これまでの採集調査データが以外に少なく、植生の割には分布の確認された種類は思っていたほど多くない。今後の精力的な調査の必要性を痛感する。

6). 近隣の市町村のファウナ等から考えてみて、今後の調査によって発見される可能性のある種類には大体次のようなものがあげられる。

ギンイチモンジセセリ・スジグロチャバネセセリ・コキマダラセセリ・エゾスジグロシロチョウ・スギタニルシジミ・ウラムスジシジミ・ツマグロヒョウモン・ホシミスジ・ウスイロヒョウモンモドキ・キマダラモドキ・オオヒカゲ・ヒメキマダラヒカゲ。

最後にこの報文をまとめるにあたり、資料の提供や有益な助言をいただいた石井為久・内海功一・尾崎勇・木村三郎・広畑政己・山本広一の各氏に深くお礼を申しあげる。

参 考 文 献

- (1) 山本広一・吉阪道雄：兵庫県産蝶類目録(1)
兵庫生物、Vol.3. No.4
- (2) 山本広一・吉阪道雄：兵庫県産蝶類目録(2)
兵庫生物、Vol.3. No.5
- (3) 山本広一・吉阪道雄：兵庫県産蝶類目録(3)
兵庫生物、Vol.4. No.1
- (4) 山本広一・吉阪道雄：兵庫県産蝶類目録(4)
兵庫生物、Vol.5. No.1
- (5) 山本広一：兵庫県下のウスバシロチョウについて、兵庫生物、Vol.6. No.1
- (6) 杉田隆三：播州地方の杜寺林の植生(1)
兵庫生物、Vol.6. No.5
- (7) 杉田隆三：奥山国有林のモミ林
兵庫生物、Vol.7. No.3
- (8) 高田忠彦・井手敏晴：兵庫県産蝶類調査報告〔I〕
シジミチョウ科(その1)
- (9) 広畑政己：兵庫県のクロツバメシジミ
ひろおび、No.4
- (10) 松井俊公：兵庫県宍粟郡の蝶相
兵庫生物、Vol.3. No.1~2
- (11) 播磨蝶友会編：兵庫県における蝶類の分布と採集記録
ひろおび、No.1~No.3
- (12) 白水隆・原章：原色日本蝶類幼虫図鑑
Vol. I ~ II (保育社)
- (13) 白水隆：原色昆虫大図鑑、Vol.1(北隆館)
- (14) 藤岡知夫：日本産蝶類大図鑑、(講談社)
- (15) 白水隆他：原色日本昆虫生態図鑑Ⅲ、チョウ編
(保育社)
- (16) 奥山春季：原色日本野外植物図譜
Vol.1~7 (誠文堂新宝社)
- (17) 牧野富太郎：新日本植物図鑑 (北隆館)
- (18) 神戸新聞社学芸部：兵庫探検 自然編
(神戸新聞社)
- (19) 国土地理協会：植生図-28. 兵庫県
(文化庁)
- (20) 兵庫県防災気象連絡会編：気象20年報

〈IWAO IWAMURA〉〒671-14 姫路市